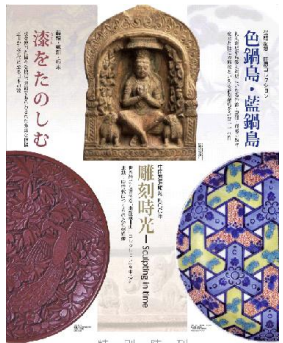


特別陳列評価シート(1/4)

施設名	大阪市立美術館	展覧会名	特別陳列「受贈記念田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」 特別陳列「蒔絵・螺鈿・根来 漆をたのしむ」 特別陳列「中国石造彫刻400年 雕刻時光 -Sculpting in time」
-----	---------	------	---

概要・実績	目的	<p>開館七十余年を数える当館の収蔵品・寄託品は国内外に誇る貴重な作品が多い。従来はこれらを常設展として展示していたが、特別陳列として三つのテーマで同時に展覧会を開催し、広報した。</p> <p>①故田原一繁氏と元子夫人の収集による鍋島焼の寄贈を記念して118件の全作品を展示。あわせて東京都千代田区教育委員会蔵江戸城焼土出土鍋島焼陶片一括を展示。</p> <p>②国内屈指のコレクションを持つ館蔵、寄託の漆工品から、国宝1件、重要文化財6件を含む蒔絵・螺鈿・彫漆・根来・鎌倉彫など101件と本館蔵と京都国立博物館から寄託を受ける小西家旧蔵尾形光琳関係資料から、蒔絵の下絵など12件の重要文化財を公開。</p> <p>③は世界的なコレクションとして知られる館蔵の山口コレクションを中心に、北魏～唐時代（5～8世紀）の仏教・道教による石刻造像・52点を展示。あわせて東洋陶磁美術館蔵の石窟壁面の拓本を2点展示した。</p>					
	会期	平成23年8月2日～同年9月4日		会期 30日			
	主催	大阪市立美術館					
	共催・後援	共催 : なし 後援 : なし					
	協賛・助成	協賛 : なし 助成 : なし					
	観覧料	一般500円 高大生400円		無料対象者	中学生以下、および市内在住65歳以上、障がい者		
	観覧者総数	7,429人	有料入場	3772人	有料率%	50.33%	
	作品件数	286件	うち、借用	3件			
	関連事業	<ol style="list-style-type: none"> 講演会 8月7日(日) 友の会事業として実施。当日は希望する来館者も聴講。 ヴァイオリン演奏会 8月20日(土) 2回 蓄音機 ライブ&トーク 8月6日(土)・13日(土)・20日(土)・27日(土) 2・3は、ゆとみど局の文化連携事業の「8月の催し」として実施。 資料と図録でふりかえる美術館の75年の展示を2階回廊で実施。 「美術館へ行こう」事業の参加生徒の作品展示を美術ホールで実施。 					
	企画・実施	守屋雅史 土井久美子 齋藤龍一					
成果	<p>館蔵品、寄託品のなかから、新規に寄贈をうけた江戸時代の色鍋島・藍鍋島、カジュアルコレクションおよび寄託品の日本・中国・朝鮮半島の漆工芸、中国の石造彫刻の三つのジャンルの作品を選び、鑑賞者に分かりやすく展覧することをこころがけた。</p> <p>「色鍋島・藍鍋島」はカタログを販売、「漆をたのしむ」と「雕刻時光」は三つ折りリーフレットを製作配布し、会場パネルなどと組み合わせ鑑賞の手引きとしたことは効果的であり、事前にポスター、チラシを製作し、広報を行ったことから展示は好評を得た。</p>						
補足事項							

特別陳列評価シート(2/4)

施設名	大阪市立美術館	展覧会名	特別陳列「受贈記念田原コレクション 色鍋島・藍鍋島」 特別陳列「蒔絵・螺鈿・根来 漆をたのしむ」 特別陳列「中国石造彫刻400年 雕刻時光 -Sculpting in time
-----	---------	------	--

定量評価		入場者数	予算	外部資金	総事業費	観覧料収入	その他収入	収入合計	図録販売数
	目標	13,000人	6,176,000		6,176,000	2,933,000	676,000	3,609,000	900
	実績	7,429人			5,347,864	1,823,100	347,100	2,170,200	256
	達成率	57.1%			86.6%	62.2%	51.3%	60.1%	28.4%

定性評価	実績・伝統の継承と新たな魅力創出	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・名品を含む多数の館蔵コレクションを学芸員のキュレーションにより効果的に見せる企画として、従来の展覧会の枠組みを変更し、「特別陳列」として開催したことを評価する。 ・多数のコレクションを良好な状態で保管していること、展示に当たり学術性が高く丁寧な展示解説を行っていることは、永年にわたる努力の賜と考える。また、今回展示が行われた陶磁器のように、優れた文化財を多数寄贈していただけるのも、館のブランドが確立され、多くの市民の信頼を得ていることの表れである。
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者を確保しなければならない等の諸事情もあって、常設展示に併行して大規模な特別展が年数回実施されているため、その都度大規模な展示替えが必要となり、職員の負担が増加している。また、入館者は、展示作品数の多い特別展を鑑賞した後、常設展示を鑑賞する時間的・体力的余裕がない状態になっており、常設展示の展示替えに費やされた膨大な努力が十分いかされていないようにも見受けられる。このような現状を踏まえ、入館者の鑑賞機会の確保と館の業務遂行の双方が両立するためには、館のコレクションをどのように展示することが望ましいのかについて中長期的視点から検討することを期待する。 ・市立美術館は、展示に限っても常設展示の他に、特別展・企画展の開催、公募団体へのギャラリーの貸し出し等、多くの業務を担っている。膨大なコレクションを適切に管理運営し、次世代に伝えていくためには、職員が館蔵コレクションの調査研究に従事できる時間が十分確保される必要がある。ベテラン職員が保持する知識と技能を若手職員に継承することにも十分留意した運営を期待する。
	さまざまな来館者への対応	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者調査により観客の実態を調査して、分析結果を入館者の増加にいかそうとする取り組みを開始したことを評価する。今後も継続して実施することを期待する。 ・特別陳列に関して図録と展示概要を紹介するリーフレットを作成したことを評価する。 ・美術館の75周年にあわせて展示した資料と図録は、館の歴史を知る上で有益な展示であった。館の歴史、館の建物、館の所在する天王寺公園の歴史について入館者に知らせる掲示やミニ展示が恒常的にあるとよい。
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・充実したコレクションをもつ博物館にとって、常設展示を定期的に鑑賞する入館者をどれだけ確保できるかが館の運営にとって極めて重要である。年間を通して定期的に来館するヘビーユーザーが更に増えるとともに、新たな入館者を開拓するための戦略を構築してほしい。 ・鍋島の図録販売がオープンに間に合わなかったのは残念だった。来場者の購買意欲を満たすという面からも、今後は努力されたい。 ・常設展示がもっと多くの人に鑑賞してもらえるように、展示のプロモーション活動の推進と館とコレクションに親しみを増やすための解説の在り方を多角的に検討する必要がある。多くの館が取り組んでいる解説ボランティア制度の導入も検討することを期待する。

特別陳列評価シート(3/4)

定 性 評 価	連携による 総合力の 発揮	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市博物館協会傘下の美術館や博物館と他の美術館・博物館との連携が進んできたことを評価する。 ・特別展・企画展では他館の作品を中心に展示することが多いが、特別陳列では、自館の作品だけを展示し、他館から作品を借りてくるケースは少ない。展示効果を高めるために、他館からの借用を行うことは意義のあることである。今後も、積極的に取り組んでほしい。
	連携による 総合力の 発揮	改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> ・自館のコレクションを中心とした展覧会で入館者数を獲得することは、美術館・博物館の運営にとって重要な戦略である。通常の常設展示や特別展とは異なるコンセプトで魅力的な展示を行う展覧会として、「特別陳列」の一層の充実を図ってほしい。なお、展覧会の属性を表す「特別陳列」という名称はやや親しみに欠ける感がある。図録を刊行するなど規模の大きい展示の場合、展覧会種類の名称については再考してほしい。 ・大阪市博物館協会傘下の博物館との連携については、今後、多様な連携を進めていくことが重要である。連携が計画的・効果的に進むように、協会内で定期的な打合せを行うことが望まれる。
	ニーズに 即し効果 的な事業 展開	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> ・市立美術館は、優れたコレクションを多数所蔵し、学芸員の調査研究能力も高い。また、大規模な特別展を始め、様々な展示を企画・運営する運営力は卓越している。
		改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> ・市立美術館では、特別展の専用の展示室がないことから、年数回実施される特別展のたびに常設展示の撤収と新たな展示を行っている。また、コレクションには古美術も多く、保存上の理由から頻繁な展示替えが必要なため、学芸員の作業量は膨大なものになっている。同一ジャンルのコレクションを年間を通して展示することが難しい状態が生じている。特別展の開催数・開催日が増加し、常設展示を充実する上で難しくなっている中、館蔵コレクションを如何に入館者に見てもらうためには、どのような工夫が可能か十分検討する必要がある。 ・館蔵のコレクション・寄託品をいつ見ることができるのか、入館者にタイムリーに伝えることのできる体制を確立することを期待したい。公立の美術館の多くがそうであるように、コレクションの質量や学芸員の能力に比べ、館の広報力・情報発信力が弱い。広報力、情報発信力の充実強化が急務である。館のホームページの充実にも取り組んでほしい。

総評	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> ・多数のコレクションを良好な状態で保管していること、展示に当たって学術性が高く、丁寧な展示解説を行っていることは、永年にわたる努力の賜と考える。 ・今回展示が行われた陶磁器のように、優れた文化財を多数寄贈していただけるのも、館のブランドが確立され、多くの市民の信頼を得ていることの表れである。
	改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> ・市立美術館のコレクションや寄託品は、大阪・関西の資産である。このコレクションを戦略的に展示することにより、市立美術館の奥の深さ、コレクションとコレクターの生き様、文化財の寄贈を行った関西のもつ文化力を、更に積極的に提示してほしい。「大阪のコレクター列伝」というような寄贈されたコレクションをシリーズ化していく展示の開催を期待したい。 ・建物や設備の老朽化が進んでおり、展示活動だけではなく、作品の保存、観客へのサービス面等美術館の運営全般に支障が生じてきているように見受けられる。災害対策も含め、施設設備のリニューアルに取り組むべき時期になっている。美術館の設置者である大阪市に、美術館の施設設備の現状等について十分説明してほしい。 ・「特別陳列」については、企画内容、展示する作品数、解説の在り方、図録等の製作、入館料等について様々な実践を行うなかで、市立美術館らしいスタイルをつくり、多彩で質の高いコレクションを一人でも多くの入館者に見てもらう機会にしてほしい。

特別陳列評価シート(4/4)

- ・入館者の幅を広げる上で、例えば、作品数を絞り込み、優品をじっくり見せる企画やターゲットを絞り混んだ広報など、従来の市立美術館のスタイルにとらわれない試みについても積極的に取り組んでほしい。
- ・市立美術館のコレクション、寄贈されたコレクションの概要等を紹介した冊子が、現在絶版になっている。厳しい財政状況等の下で出版が難しくなっている事情は十分理解できるが、関西を代表する美術館のコレクションを紹介する冊子の出版は、是非実現してほしい。
- ・受贈記念を中心に色鍋島をもっと充実させて、テーマも2つぐらいでよかったのではないかと思われる。